

生活者

生活と政治をつなぐ情報紙

通信

No.402
2025.3.1

東京・生活者ネットワーク

発行 東京・生活者ネットワーク
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASK ビル4・5階
TEL.03-3200-9189 FAX.03-3200-9274
Eメール tokyo@seikatsusha.net
URL https://www.seikatsusha.me
発行責任者 山内玲子
定価 年間1000円・1部100円 郵便振替口座 00130-3-18417
毎月1回1日発行 1994年5月23日第三種郵便物認可



生活者ネットワーク3つのルール

1 議員は交代制(ローテーション)

生活者ネットワークの議員は、交代制。議員を職業化、特権化せず、世代交代を進めることで参加の層を広げます。任期を終えた議員は、市民政治を広げるための活動や地域活動などに、その経験を活かします。

2

議員報酬は市民の政治活動資金に

生活者ネットワークの活動はカンパで支えられています。議員報酬は、市民の政治活動資金に活かします。お金の流れは公開し、政治資金の透明化をはかっています。

3

選挙はカンパとボランティアで

選挙は、政治に参加する入り口です。みんなでカンパ(カンパ)と知恵や努力(ボランティア)を出し合い、選挙を行います。

都議会ネット

■第1回定例会開会中(～3月28日)。自民党裏金問題による議長辞任に伴い、臨時会(2/10)が開催され新議長(都フア)、副議長(公明)が選出。過去最高の予算規模9兆1580億円を審議する予算委員会:3月12日～。
■東京都議会議員選挙:6月13日告示、22日投開票。

地域ネット

小金井ネット

3月16日(日)告示、23日(日)投票の小金井市議会議員選挙に、現職の安田けいこを擁立予定
042-387-1068
koganei@seikatsusha.net

清瀬ネット

生活のお困りごとと相談ください(毎月第3日曜日)
3月16日(日)14:00～16:00 清瀬・生活者ネット事務所(清瀬市元町1-7-21クルトア201/清瀬駅) 家計相談員が対応・秘密厳守 042-494-8720

杉並ネット

なんでも相談室(毎月第3日曜日)
3月17日(月)10:00～12:00(要予約) 杉並・生活者ネット事務所(杉並区阿佐ヶ谷南1-15-6和久井ビル2階/南阿佐ヶ谷駅) 個室あり 03-5377-5080

練馬ネット

「戦争はしない・原発はいらない」9条スタンディング(毎月9日)
4月9日(水)12:00～13:00 練馬駅南口 03-3993-4899

葛飾ネット

なんでも相談会(毎月10日)
4月10日(木)10:00～12:00 葛飾・生活者ネット事務所(葛飾区高砂8-21-1/京成高砂駅) 03-5876-4757

生活者ネットワークは東京都内32の自治体にあり、都議1人、市・区議39人の議員とともにそれぞれの地域課題に取り組むと同時に、市や区をこえた「東京問題」には全体で取り組んでいます。

東京を生活のまち、安心・共生・自治のまちにするために発言を続けます。



日本福祉大学専任講師の両角達平(もろずみ・たつへい)さんによる基調講演。1月27日、杉並公会堂

学生時代から若者の社会参加を拡げる活動に関わってきた両角さん。そのきっかけは長野県茅野市の中高生向け施設「chukorandoチノチノ」での活動で、ここは杉並区の「ゆう杉」がお手本だと言います。「ゆう杉」が、ここは杉並区の「ゆう杉」活動で、ここは杉並区の「ゆう杉」がお手本だと言います。「ゆう杉」が、ここは杉並区の「ゆう杉」がお手本だと言います。

どが位置づけられ、自分の意見が尊重される経験を通して主権者意識が育まれます。国政・地方選挙の際に、生徒会が投票用紙・投票箱の実物を使って学校内で模擬選挙を実施、政治家や政党の人を招いてディベート大会を開催するなど、選挙をリアルに学ぶ格好の機会です。同じような構図は地域においても用意されていて、若者協議会や各地域に設置された居場所「ユースセンター」での活動が政治に反映され、民主主義の実践となっています。

あなたの選択が東京を変える



東京・生活者ネットワーク2025新春のつどい スウェーデンに学ぶ若者参加のまちづくり

1月27日、東京・生活者ネットワークは「2025新春のつどい」を開催。会場となった杉並公会堂(杉並区)には市民、運動グループや研究者、国会議員などが参集し、「市民政治が拓く生活都市・東京」の実現への思いを改めて胸に刻む機会となりました。第1部の基調講演では、スウェーデンの若者政策を主たる研究テーマとする日本福祉大学専任講師の両角達平さんが登壇。両角さんの講演より報告します。

こと杉並区児童青少年センターに設置された「ゆう杉」は、建設の企画段階から子どもががっつき加わった市民案が活かされ1997年に開設。今も中高生委員会がオフィシャルな立場で運営を担うという、子どもの「参加の権利」を形にした施設です。そしてその仕掛け人となったのが何を隠そう、杉並・生活者ネットワークの仲間たちでした。杉並ネットにとつては「ゆう杉をつくったのは私たち」という自負があるのです。

子ども若者の主権者意識を育むスウェーデンの社会環境

さて、スウェーデンに留学した両角さんは、そこでの若者の幸福度、社会参画意識の高さを目の当たりにします。日本の若者の投票率が20～30%台であるのに対しスウェーデンでは80%を超え、平和的デモへの参加について日本では「したことがある」「するかも」を足しても30%、スウェーデンでは80%と、その差が歴然です。さらに女性の国会議員は46%と、男女平等も進んでいるスウェーデンと日本は何が違うのか。

講演後、世田谷区議のおのみずきが生活者ネットワークの「ユースチーム」立ち上げを報告し、若者が気軽にアクセスできる政治参加の窓口かつ活動拠点に積極的参加を、とアピールしました。



東京・生活者ネットワーク2025新春のつどい。基調講演の講師・両角達平さん(日本福祉大学専任講師)を囲んで、東京・生活者ネットワークの代表委員、候補予定者、都議・区議・市議ら。2025年1月27日、杉並公会堂

▲新春のつどい閉会にあたって、都議選に向けて決意を述べる、東京・生活者ネットワーク候補予定者。左から、高岡じゅん子(前世田谷区議)、岩永やす代(都議・代表委員/国分寺市・国立市)、小松久子(元都議/杉並区)

Information

「日の丸・君が代」の強制に反対する練馬の集会2025 歴史否定と教科書問題の現在

3月15日(土) 13:45～ 練馬区立豊玉リサイクルセンター多目的室(桜台駅) 加害の歴史を消そうとする動きにどう抗するのか 講師: 梶谷陽子(子どもと教科書全国ネット21事務局) 500円 練馬教育問題交流会 080-6635-0225

ドキュメンタリー「ワタシタチハニンゲンド」自主上映会

3月29日(土) 14:00～ 葛飾区堀切地区センター3階ホール(堀切菟浦園駅) 500円 かつしか人権ネット 03-6231-2371 (堀切こうとう教会)

春! だきしめる平和のシンポ―戦争を知ろう―

3月30日(日) 13:00～15:30 みなとパーク芝浦1階リーブラホール(田町駅・三田駅) 神田香織・講演「はだしのゲン」/伊勢崎賢治の講演+炎のJazz「戦争の現場から」/会場とのフリートーク 2000円 要予約 k.kozen@kozen-law.jp 氏名・電話番号をメール 劣化ウラン廃絶みなとネットワーク/脱被ばく実現ネット/平和を求め軍拡を許さない女たちの会/光塾COMMON・CONTACT 03-5412-0828

東京・生活者ネットワーク

都議会REPORT

食べることは生きること
「百姓の百の声」上映会&トークを開催!

東京・生活者ネットワーク都議会議員
岩永やす代 [国分寺市・国立市]



農は未来への希望

2月8日、映画「百姓の百の声」上映会&トークを国分寺で開催しました。映画の中では、「農は生命が生まれる場所」「農家力と地域力」「きゅうりの声を聴く」「百姓は、自然と人間が向き合う接点。そのフロントラインにいる。自然とも、作物とも、微生物とも付き合うことのできる能力を持った人たち」など、たくさん心に深く響く言葉。

上映会後のトークセッションでは、柴田昌平監督の農への想い、今だからこそ都市の農地や緑をまもっていかたいという市民や、若い女性の就農者の挑戦、地場野菜の流通の現場からの報告など、熱気あふれる意見交換が繰り広げられ、これからの農業への希望を感じました。

多摩地域でも、相続が発生するたびに農地が売られ、宅地になってしまっています。都内の農地はこの30年間でほぼ半減しています。また、農業者の約7割が60歳以上で高齢化も進み、そのうち約6割が後継者がいない状況です。

2020年に始まった「東京農業アカデミー八王子研修農場」では、農業をやりたい人の就農を支援し新規就農につなげています。2023年は都内で75人が新たに就農し、若い人の参加も増えてきています。

給食無償化を機に、地産地消を進めよう!

東京都では、3学期から都内全自治体で学校給食が無償化されました。無償化とあわせて都内の農産物をできるだけ学校給食に取り入れ地産地消を進め、農業を支えていくよう提案しています。例えば都内の農産物を学校給食で使う場合に都が補助するしくみや、学校給食用に作付けされた農産物を全量買い取る、多摩地域



会場は満席。熱気あふれる会となった。2月8日、映画「百姓の百の声」上映会&トーク

韓国女性政治センター、都議会生活者ネットを訪問



韓国社会における女性の政治参加の機会を拡大することを目的とする非営利団体「韓国女性政治センター」のキム・ウンジュさんら4人が、都議会生活者ネットワークを訪問。国際的な連携をめざして、活動内容などについて意見交換し、交流した。東京・生活者ネットワークからは、前都議の山内玲子、都議の岩永やす代、前世田谷区議の高岡じゅん子、元都議の小松久子らが参加した。ともにジェンダー平等社会の実現を約す場となった。2月18日

この60年、初、都議会臨時会で議長選挙

都議会自民党の政治資金パーティー裏金問題で議長が辞任し、

今後自治体と連携して、農地や緑の保全、都市農業への支援、学校給食をはじめとする食の安全の取り組みを進めていきます!



国立市で就農し、東京都工コ農産物にも取り組んでいる女性農業者

2月10日に臨時会が開かれ、議長選挙が行われました。都議会の慣例では一番人数の多い第一会派から議長が選ばれていきましたが、今回は自民党が引き起こした不祥事によるため、当然のことながら自民党は議長を辞退し、第二会派の都民ファーストの会から議長が、副議長は第三会派の公明党から選出されました。

議長と副議長は変わりましたが、問題の全容を明らかにし真相を究明することが重要です。また、多摩地域では、議長選出の際に候補者が意見表明したうえで選挙に臨む自治体が増えており、民主的な議会運営が模索されています。少数会派の発言も保障される開かれた都議会に変えていくことを引き続き求めていきます。

日本初開催のデフリンピックを機に手話普及を進める取り組みを

国立・生活者ネットワーク市議会議員
なかたにあやこ



2025年、世界が目にするデフリンピックが東京で開催されます。デフリンピックは聴覚障がいのあるアスリートたちが競技を行う世界的な大会であり、1924年第1回パリ大会開催以来、今回の「東京2025デフリンピック」は、日本にとって初めての歴史的な機会です。この重要なイベントを契機に、私たちは手話について学び、理解し、広めることが求められています。



国立市では、2023年9月に手話言語条例が制定され、制定1周年記念として市内各所でイベント実施されました。国立駅旧駅舎でのパネル展に参加する、なかたにあやこ

手話は言語―手話クラブを立ち上げた子どもたちの実践

国立市第七小学校では、国立市手話言語条例の制定を機に4年生から6年生までの子どもたちが主体的に手話クラブを立ち上げ、「自分の名前を手話で」「校歌を手話で」できるようにしました。活動が進められてきました。2学期からは立川学園の児童がクラブ参加をし、クイズやゲームを通じて楽しく交流している様子が見られました。

手話は、聴覚障がい者同士のコミュニケーションの手段であるだけでなく、言語のひとつです。日本手話には、独自の文法や表現方法があり、口話や筆談では伝えきれない感情やニュアンスを表現することができます。

国会では「手話に関する施策の推進に関する法律(案)」にかかる議論が各党で開始され、2025年中に通常国会で成立をめざすとされています。各自治体でも条例を実施と照らし、より実行力のある計画立案に向けて提案していくことが求められています。

都政NOW
区市とつなぐ